

# 大和地域振興計画



令和3年12月

郡上市

大和振興事務所

# 目 次

## 第1章 基本的事項

- (1) 大和町の概況 ..... 1
- (2) 大和町の人口の推移..... 2
- (3) 大和町の産業（就業者数と事業所数） ..... 4

## 第2章 分野別計画

- (1) 産業・雇用 ..... 5
- (2) 環境・防災・社会基盤 ..... 7
- (3) 健康・福祉 ..... 9
- (4) 教育・文化・人づくり ..... 11
- (5) 自治・まちづくり ..... 13

## 第3章 小さな拠点とネットワークの形成にむけて

- (1) 小さな拠点とネットワークの考え方 ..... 15
- (2) エリア設定の考え方 ..... 15
- (3) 地域運営の仕組みづくり ..... 16

## 第4章 大和町における小さな拠点とネットワークづくり

- (1) 校区ごとの現状 ..... 18
- (2) 大和町の主な地域活動団体 ..... 21
- (3) 小さな拠点とネットワークづくりの方向性 ..... 22

## 第1章 基本的事項

### (1) 大和町の概況

大和町は郡上市のほぼ中央に位置し、山々に囲まれ、町の中心部を流れる長良川およびその流域に集落が形成されており、市内各地へアクセスしやすい立地となっています。

昭和54年に県営圃場整備工事中に東氏館跡が発見され、発掘調査を行った結果、館跡から庭園遺構が見つかり、昭和63年6月、国の名勝に指定されました。東氏は、承久の乱の軍功により承久3年(1221年)山田庄を加領されて以降、約340年にわたりこの地を治めました。居城は篠脇山にあり、令和2年度からの発掘調査によって貴重な出土品が発見され、今後の調査・研究が期待されています。なお、東氏は代々歌道に優れ、特に東常縁は古今伝授の祖とされ、古今和歌集の解釈を秘伝として連歌師宗祇へ伝授したことで知られています。このことから、「古今伝授の里づくり」をシンボル事業と位置づけ、古今伝授の里フィールドミュージアムなどの施設整備や文化事業を実施し、「歌のまち」としてのイメージの定着を図ってきました。また令和3年は、東氏入部800年、古今伝授550年の節目の年となります。中世の郡上の政治経済、文化の礎を築いた東氏の歴史や文化遺産を顕彰し、広く周知することで地域振興につなげる良い機会となっています。

産業面では、平成21年度に「古今伝授の里やまと 食・文化再生特区」の認定を受け、中世の食文化の掘り起こしを行い、「どぶろく」を商品化したほか、有害鳥獣の利活用へ向け獣肉解体処理施設を整備し、「ジビエ料理」の特産化を確立しています。また、やまと温泉やすらぎ館、道の駅古今伝授の里やまと及び商業集積地などには、市内外から多くの人々が訪れ、交流、情報発信の場となっており、加えて道の駅に隣接して外資系ホテルが開業したことから、大和を訪れる人が増え、交流が広がることが期待されています。

一方で、平成6年に工業団地の第1期工事の完成により3社が操業を開始しており、その後、平成9年に全体が完成し、現在では11社が操業しています。大和町をはじめ、郡上市の雇用につながっており、現在約150名の方が就労しています。

しかし、大和町においても少子高齢化や人口の減少は進行しており、地域の担い手不足への不安、耕作放棄地の増加、鳥獣による農作物への被害など他地域と同様の課題があります。なお、少子化の影響から4小学校のうち2小学校で複式学級を編成していることから、4小学校を1つの小学校に統合し、令和6年4月の開校へ向けて、校舎の整備や学校間の交流活動の推進などに取り組んでいます。



薪能くるす桜



国指定名勝 東氏館跡庭園

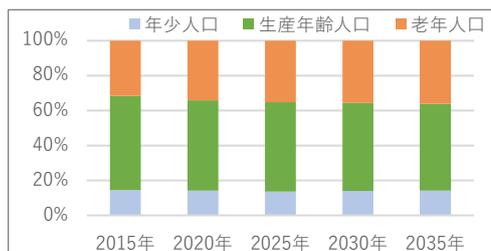
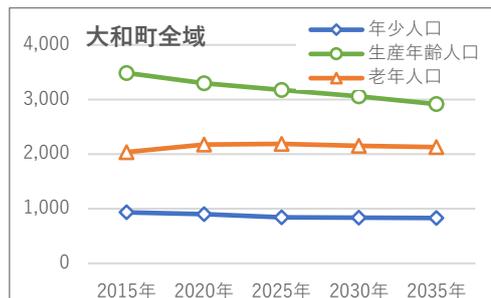
## (2) 大和町の人口の推計

大和町全域の人口は、2015年から減少し続ける予測となっています。年少人口、生産年齢人口は減少し続け、特に生産年齢人口は16%の減少となっています。一方、老年人口はいったん増加するものの、その後ゆるやかに減少に転じ、2035年には2015年に比べて約4%の増加となっています。また、小学校区ごとの推移をみると、大和西小学校区の年少人口の減少率が40%と高いのに対し、大和第一北小学校区では年少人口が26.8%増加する推計となっています。

### 【3年齢区分（年少人口：0～14歳、生産年齢人口：15～64歳、老年人口：65歳以上）の人口推移】

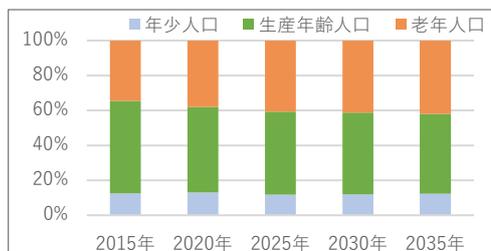
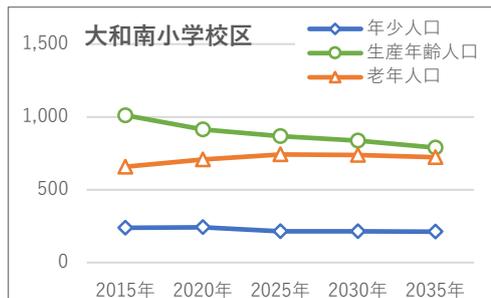
（資料：「将来人口・世帯予測ツールV2（H27国調対応版）データ」）

大和町全域	男女計 ※()は2015年を基準とした増減率				
	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年
年少人口	934	903	844	840	831 (△11.0)
生産年齢人口	3,487	3,300	3,175	3,056	2,916 (△16.3)
老年人口	2,038	2,175	2,188	2,152	2,127 (4.3)
合計	6,459	6,378	6,207	6,048	5,874 (△9.0)



- ・年少人口と生産年齢人口が10%以上減少し、老年人口がやや増加する予測となっている。
- ・全体の減少幅(△9.0%)は、7地域の中では最も少ない値となっている。

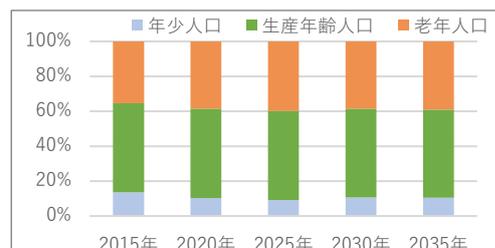
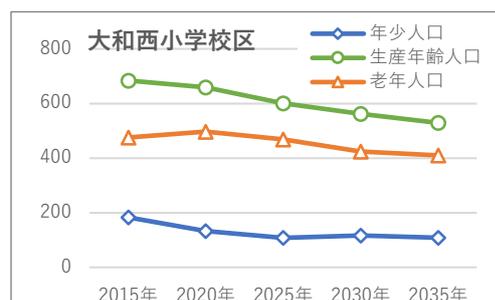
大和南小学校区	男女計 ※()は2015年を基準とした増減率				
	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年
年少人口	239	242	214	215	212 (△11.2)
生産年齢人口	1,011	914	868	836	789 (△21.9)
老年人口	658	707	742	738	724 (10.0)
合計	1,908	1,863	1,824	1,789	1,725 (△9.5)



- ・年少人口、生産年齢人口が減少し、老年人口は増加する予測となっている。
- ・各年代区分の減少率は大和町全域と同じ傾向となっている。

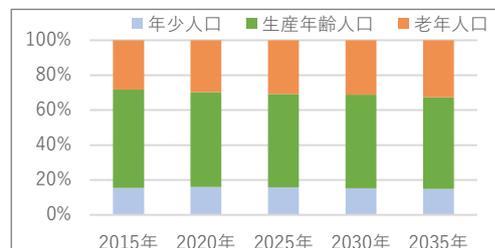
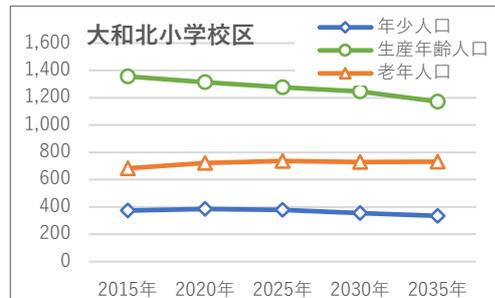
大和西 小学校区	男女計 ※()は2015年を基準とした増減率				
	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年
年少人口	183	133	108	117	109 (△40.4)
生産年齢人口	684	659	601	562	529 (△22.6)
老年人口	475	497	469	424	410 (△13.6)
合計	1,342	1,289	1,178	1,103	1,048 (△21.9)

- ・いずれの年代でも2桁以上の減少率となっており、町内4校区で減少率が最も高い。
- ・年少人口の減少率は40%強で特に高くなっている。



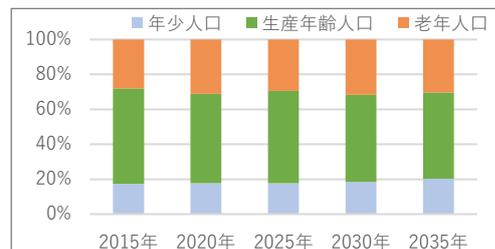
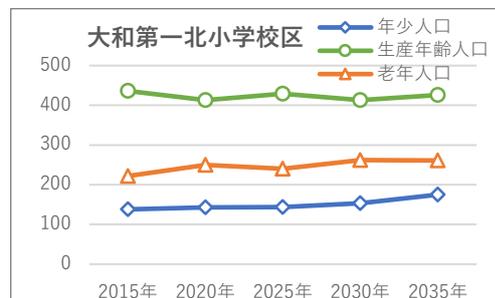
大和北 小学校区	男女計 ※()は2015年を基準とした増減率				
	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年
年少人口	374	385	378	355	335 (△10.4)
生産年齢人口	1,356	1,314	1,277	1,245	1,172 (△13.5)
老年人口	683	721	737	728	732 (7.1)
合計	2,413	2,420	2,392	2,328	2,239 (△7.2)

- ・大和町全域と同様に、年少人口と生産年齢人口が減少し、老年人口が増加する予測となっている。



大和第一北 小学校区	男女計 ※()は2015年を基準とした増減率				
	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年
年少人口	138	143	144	153	175 (26.8)
生産年齢人口	436	413	429	413	426 (△2.2)
老年人口	222	250	240	262	261 (17.5)
合計	796	806	813	828	862 (8.2)

- ・他の校区と異なり、年少人口が26.8%増加する推計で、人口全体も8.2%の増加となっている。
- ・老年人口も増加の推計だが、生産年齢人口は微減となっている。



### (3) 大和町の産業（就業者数と事業所数）

大和町全体では、住民の就業者数に対して地区内事業所の従業者数の割合が70.7%となっており、一定数が大和町外で就業していると読み取れます。小学校区ごとでみると地区内事業所の従業者数の産業別割合では、大和南小学校区で第3次産業の割合が高く、大和西小学校及び大和第一北小学校区では第2次産業の割合が高くなっています。また、大和第一北小学校区では、住民の就業者数に対し、地区内事業所の従業者数が少なく、住民の多くが地区外で就業していることが読み取れます。

#### 【就業者数及び事業所数の状況】

（資料：①総務省・国勢調査（2015年）、②③経済産業省・経済センサス（2016年））

	項目	人数・ 事業所数	産業別割合		
			第1次産業	第2次産業	第3次産業
大和町全体	① 住民の就業者数（人）	3,349	6.12%	36.55%	57.33%
	② 地区内の事業所数（事業所）	379	0.53%	37.20%	62.27%
	③ 地区内事業所の従業者数（人）	2,368	0.59%	47.34%	52.07%
大和南 小学校区	① 住民の就業者数（人）	1,007	6.95%	35.25%	57.80%
	② 地区内の事業所数（事業所）	134	0.75%	31.34%	67.91%
	③ 地区内事業所の従業者数（人）	907	0.77%	33.63%	65.60%
大和西 小学校区	① 住民の就業者数（人）	622	3.38%	37.30%	59.32%
	② 地区内の事業所数（事業所）	60	1.67%	50.00%	48.33%
	③ 地区内事業所の従業者数（人）	467	1.50%	65.95%	32.55%
大和北 小学校区	① 住民の就業者数（人）	1,287	5.13%	37.84%	57.03%
	② 地区内の事業所数（事業所）	160	0.00%	35.63%	64.37%
	③ 地区内事業所の従業者数（人）	923	0.00%	49.62%	50.38%
大和第一北 小学校区	① 住民の就業者数（人）	433	11.09%	34.64%	54.27%
	② 地区内の事業所数（事業所）	25	0.00%	48.00%	52.00%
	③ 地区内事業所の従業者数（人）	71	0.00%	70.42%	29.58%

## 第2章 分野別計画

### 【まちづくりの方向性】

**誇り高きところを育み 人の流れを起こし 産業に結びつく  
地域づくりを進めます**

～みんながつながり、広がる古今伝授の里「大和」～

### (1) 産業・雇用

#### 【現状と課題】

大和町では「古今伝授の里づくり」を掲げ、歴史と文化を活かした特色あるまちづくりを積極的に進めてきました。拠点施設として古今伝授の里フィールドミュージアム、やまと温泉やすらぎ館、道の駅古今伝授の里やまと、郡上旬彩館やまとの朝市があり、市内外からの交流・情報発信の場となっています。また、地域内にはショッピングセンターPioを中心とした商業集積地があり、地元だけでなく市内外から多くの人に利用されています。

地域資源として、和歌をはじめとする中世から伝わる文化や郡上鮎、ジビエ、梨、ぶどう等の農水産物、どぶろく特区認定によるどぶろく製造、長良川や桜並木といった自然の景観等、特色のある地域ブランドを確立しています。しかし、地域の宝である数々の資源を活かしきれていない現状から、観光入込客数は伸び悩んでおり、今後、活用方法・周知に改善の余地があると考えられます。令和2年度には、外資系ホテルが道の駅に隣接して開業し、国内外からの来訪客の更なる増加が期待されるため、多様化する来訪客の受入体制を整備する必要があります。

農林業については、就農者の高齢化による農家の減少が著しく、集落営農組織化を強く進めています。なかなか進んでいないのが現状です。また、鳥獣被害等による耕作意欲の衰退も、耕作放棄地増加の原因の一つとなっています。猟友会による獣害駆除や防護柵の設置もある程度の成果をもたらしていますが、それでもなお被害を防ぎきれていません。

#### 【目指す将来像】

**地域資源を活かして地域が活性化しているまち**

施策1		大和地域ブランドの磨き上げ
主な取り組み		
1-①	地域資源を活用した観光集客力の強化	・食（どぶろく、ジビエ等）をテーマとしたイベントの開催 ・東氏、古今伝授に関する新たなイベントの開催
1-②	地域資源の発信	・大和の食、文化の情報発信 ・道の駅や観光協会等団体・個人との連携
1-③	生産者(担い手)の確保	・新規生産者・起業者の掘り起こし ・生産者の育成のための講習会の開催

施策 2		大和の魅力の効果的な PR・整備
主な取り組み		
2-①	周遊モデル策定・整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>・遊歩道、森林（白雲山、篠脇城、母袋烏帽子岳）の整備</li> <li>・道の駅を出発点としたサイクリング、ウォーキングによる町内散策コースの策定・整備</li> <li>・大和を起点とした周遊モデルコースづくり（一般的な個人客向け、短歌結社向け、山城マニア向け、SDGs に関心のある人向け等）</li> </ul>
2-②	特色のあるプラン策定	<ul style="list-style-type: none"> <li>・短歌結社、歌人団体の集会や大会誘致の促進</li> <li>・道の駅、古今伝授の里フィールドミュージアム、宿泊施設（外資系ホテル等）の連携による歌人や文化系の愛好者向けの訪問メニューの策定</li> <li>・中部縦貫自動車道全通を見据えた誘客活動の実施（全般的な交流だけでなく、能面の里「福井県池田町」、一乗谷朝倉氏遺跡「福井県福井市」等特色ある地域との連携）</li> </ul>
2-③	多様な観光客への対応・対策・整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>・観光客が時間をかけて楽しめる大和の魅力 PR（篠脇城、国名勝庭園、和歌、着物、書、茶、農業、川遊び、鮎、ジビエ、どぶろく等）</li> <li>・多様化する観光客の受け入れに備えた観光案内看板、Wi-Fi 環境等の整備、スマートフォン等による多言語無料ガイドの提供</li> </ul>

施策 3		地域ぐるみでの農業経営・獣害対策
主な取り組み		
3-①	集落による農業維持	<ul style="list-style-type: none"> <li>・集落環境の向上を合わせた農地、将来計画の策定</li> <li>・農地保全、農業継続のための体制づくり</li> </ul>
3-②	集落による獣害対策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・集落による獣害対策（防除、捕獲、対策）の実施</li> <li>・集落と猟友会との連携関係の構築</li> <li>・担い手づくりの推進</li> </ul>

## (2) 環境・防災・社会基盤

### 【現状と課題】

近年天候の様相が変化し、豪雨による河川の氾濫、大規模な山腹崩壊などが発生する中、振興事務所、各自主防災組織や消防団等が連携し、防災体制を敷いています。しかし、今後想定を上回る災害が危惧される中、被害の拡大を防ぐため、地域の自主防災組織や消防団の育成強化やさまざまな組織が連携して、一丸となって災害に強いまちづくりに取り組む防災体制の強化が必要です。

防犯については、道の駅古今伝授の里やまと、やまと温泉やすらぎ館、古今伝授の里フィールドミュージアムや外資系ホテルなどに、国内外からの観光客が見込まれる中、地域内に様々な人が入ってくることにに対し不安を感じる住民も多いと思われます。このような状況から、自治会による防犯カメラの増設への補助や、警察・防犯活動団体との連携を密にし、地域の安全の啓発に取り組んでいます。今後も子どもからお年寄りまで安心して暮らせるまちにするため、防犯カメラのさらなる増設など防犯対策を強化していく必要があります。

社会基盤については、道路整備はもとより、高齢により自家用車での移動が困難となる方も多く見込まれることから、自主運行バスのルート変更や交通の空白地の解消など、公共交通等による交通手段を確保し、地域住民の快適な交通アクセスの向上に努めています。このほか、適正な維持管理によるライフラインの確保や情報化社会に対応したまちづくりなど、総合的、計画的に取り組んでいく必要があります。

環境面では、豊かな森林や川があり、そこには多種多様な動植物が生息していますが、近年外来種・外来生物の繁殖や、山林等へのごみの不法投棄による生態系への影響が懸念されています。地域住民の自然環境の保全に対する関心が高まっており、地域と連携した外来種・外来生物の駆除活動や、地域からの情報と市のパトロールにより不法投棄の処理を行っています。しかし、良好な自然環境を将来へ引き継いでいくためには、外来種・外来生物の駆除、不法投棄の処理、啓発活動など、これまで以上に地域、各種団体との連携を強化し、自主的に活動を行う体制づくりが必要です。

### 【目指す将来像】

安心して過ごせるまち

施策 1		自主防災組織の育成・充実
主な取り組み		
1-①	自主防災組織の育成	・自主防災組織、福祉施設等と連携した協力体制の強化
1-②	有事の際の協力体制の構築	・自主防災組織、福祉施設等との避難所運営についての情報の共有化、協力事項の確認 ・災害弱者をはじめ、防災施設を示した「つながり支え合いマップ」の更新・充実・活用

施策 2		地域の安全・安心のための連携
主な取り組み		
2-①	地域の安全確保	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自治会や企業との連携を密にした防犯体制（防犯カメラの設置等を含む）の強化</li> <li>・小学校統合などを踏まえ、各防犯関係団体、警察、大和振興事務所が連携した防犯・通学路の点検強化</li> </ul>
2-②	公共交通網の整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各種生活に必要な機能の集約・確保とそれをつなぐ利便性の高い交通網の整備</li> </ul>
2-③	ライフラインの確保	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自然災害を未然に防ぐインフラ整備（森林保全、道路の維持管理）</li> <li>・除雪体制の維持</li> <li>・ライフライン確保のための倒木対策</li> </ul>
2-④	インターネット環境の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・拠点となる施設（公共施設、民間施設等）の Wi-Fi 環境の整備促進</li> </ul>

施策 3		不法投棄の監視、外来種・外来生物の駆除
主な取り組み		
3-①	監視・駆除体制の強化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自治会と警察等関係機関が連携し、不法投棄の監視の強化</li> <li>・自治会等と連携し、美化運動等に合わせ外来種・外来生物の駆除の強化</li> </ul>

### (3) 健康・福祉

#### 【現状と課題】

大和町における高齢化率は他地域と比較すると若干低く推移しているものの、自治会によっては50%を超えています。更に、一人暮らしの高齢者世帯の割合は5年前と比較すると大きく増加しており、今後の更なる高齢者世帯の増加や過疎化に備え、地域における支えあい・見守り体制を強化していかなければなりません。地域の活力となる若い世代が安心して子どもを産み育てることができる環境を充実させることも重要です。

医療面においては、大和町の中心部には診療所がそろい、かかりつけ医としての役割を担っており、郡上市民病院・国保白鳥病院等の中核的医療機関へもアクセスしやすく、十分な体制が備わっています。しかし、病気や身体機能の低下をきっかけに、家庭での介護が難しくなり、病院や施設での生活に移行しがちです。結果、住み慣れた地域に長く住みたいと思っても、離れざるを得ない状況となってしまいます。長寿社会においては、心身共に健康で長く生活できることが大変重要であり、高齢者のフレイル（虚弱）予防や若い年代からの健康意識の醸成が今後の課題と考えます。

#### 【目指す将来像】

健康で長く暮らせるまち

施策1		地域の支えあい・見守りの仕組みづくり
主な取り組み		
1-①	大和地区社会福祉協議会の活動推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大和地区社会福祉協議会（各支部）と大和振興事務所との連携強化</li> <li>・高齢者世帯や小学一年生のいる世帯への訪問活動を支援</li> </ul>

施策2		子ども・子育て支援の充実
主な取り組み		
2-①	子育て支援団体への支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大和こどもセンターバンビ等の支援</li> </ul>
2-②	相談体制の強化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・妊娠中からの子育てに対する不安の解消や学習のための場を充実</li> <li>・子育て支援サークル等の活動の充実（校区別子育てサークル、乳幼児学級）</li> </ul>

<b>施策3</b>		<b>長寿社会に向けた健康づくりの推進</b>
<b>主な取り組み</b>		
3-①	<b>高齢者のフレイル予防</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域ごとの高齢者運動教室の普及</li> <li>・ 大和地区社会福祉協議会（各支部）と大和振興事務所が連携したサロンや「地域支え愛活動」の推進、高齢者の社会参加や活躍の場の充実</li> </ul>
3-②	<b>在宅医療、介護サービスの充実</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 保健師による訪問相談事業の推進</li> <li>・ 地域の診療所、介護サービス関連事業所と大和振興事務所との連携強化</li> </ul>
3-③	<b>健康意識の醸成</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 健康診断の受診率向上</li> <li>・ 保健師等による健康指導の実施</li> </ul>

## (4) 教育・文化・人づくり

### 【現状と課題】

情報技術の進歩や国際化の進展、急激な社会の変化に対応するため、新しい時代に求められる資質・能力を育てる教育の充実と、一人ひとりが夢に向かって高い志をもち、未来を切り拓く「生きる力」を育てる教育が求められています。また少子化により児童生徒数の減少が進む中、小学校における国の適正規模及び適正配置に関する考え方では、クラス替えが可能である1学年2学級以上、通学距離については4km、約1時間以内とされています。このような考えのもと、郡上市学校体制検討委員会から郡上市における望ましい教育環境や学校の適正配置について答申があり、郡上市学校規模適正配置計画を策定しました。

大和町では、町内全体の1学年の児童数が50～60人であり、今後も同水準で推移することが見込まれます。一方、現在2つの小学校が複式学級を編成していることから、町内の4つの小学校を1つの小学校に統合する取り組みが進められています。この統合により複式学級が解消されることはもとより、新しい時代に求められる資質・能力を育む教育の充実が望まれています。

一方で、小学校は地域交流の核となる存在でもあり、統合後、小学校区が大和町全域となることから地域や世代間の連携・交流が希薄化することが懸念されています。学校の統合に向けた取り組みの中で、統合する学校や閉校後の学校の活用方法はもちろんのこと、地域と学校のつながりとしてコミュニティスクールのあり方や世代間の交流を推進していく必要があります。

また、大和町では「古今伝授の里づくり」をシンボルに、古今伝授の里フィールドミュージアムを核として地域振興を進めてきました。特に短歌を中心とした文化振興に取り組み、市内外に短歌の魅力を発信するとともに、地域の小中学生は短歌の学習を通し大和町の歴史を学ぶことができました。加えて大和町には短歌以外にも魅力ある歴史や文化が多くあり、各地域において伝統芸能の継承活動や、公民館、文化協会等を主体とした文化活動等が行われています。しかし、広く市民に知ってもらう機会に乏しく、地域の魅力を学ぶ機会が必要です。前述のように小学校が統合されることから、これまでとは違った活動が求められると同時に、地域に触れる学びの場を創出し、活動の担い手となる組織や人材を育成していく必要があります。

### 【目指す将来像】

**みんなが地域を知り愛着と誇りをもつまち**

施策1		地域とつながる小学校の統合と地域とつながる中学校
主な取り組み		
1-①	コミュニティスクールのあり方の検討	・大和地域小学校統合準備委員会等で、コミュニティスクールのあり方を検討
1-②	小学校の活用方法の検討	・統合する小学校、閉校する小学校の活用方法について、地域協議会、自治会等と協議・検討
1-③	地域・幅広い世代間交流の推進	・大和中学校が開催している「地域とつながる『やまとの日』」を大和振興事務所と学校運営協議会等が連携し、地域住民の参加を促進

<b>施策 2</b>		<b>みんなで地域を学ぶ体制づくり</b>
主な取り組み		
2-①	<b>ふるさと学習の充実</b>	・郡上東氏 800 年、古今伝授 550 年を契機とした地域の歴史的資源、文化財の公開・活用によるふるさと学習の開催
2-②	<b>オンライン講座の開催</b>	・地域の文化、歴史などのオンライン講座を開催・発信

<b>施策 3</b>		<b>みんながつながる大和づくり</b>
主な取り組み		
3-①	<b>世代間・地域間交流の機会と場の整備</b>	・子どもからお年寄りまで幅広い世代の交流の機会と交流の場となる公園の検討
3-②	<b>地域の交流・連携の検討</b>	・小学校統合を機として、地域、世代間交流のあり方を検討する場を設置
3-③	<b>各種団体交流会の開催</b>	・文化、サークル等の交流会、合同発表会の開催
3-④	<b>公民館等勉強会の開催</b>	・公民館、その他各種団体等、組織のあり方についての勉強会を開催

## (5) 自治・まちづくり

## 【現状と課題】

大和町では、東氏ゆかりの歴史・文化遺産を活かした「古今伝授の里づくり」をシンボル事業として位置づけ、施設の整備やさまざまな文化事業を実施し、その個性を磨き魅力を高めてきました。その結果、「歌のまち」としてのイメージが定着し、交流人口の増加につながっており、また、魅力を感じた移住者も増えつつあります。しかし、こうして生まれた人の流れを、地域活性化や地域に暮らす住民の豊かさにつなげる取り組みは十分とは言えず、課題を残しています。また、今後人口減少と少子高齢化は一層進み、次世代のまちづくりの担い手が減り、地域力の低下が懸念されます。

今後も引き続き「古今伝授の里づくり」として、個性あるまちの魅力を高め、その効果が産業に結び付く取り組みを進めるとともに、大和町に住む人々がまちを誇りに思い、心豊かに暮らすまちづくりを推進する必要があります。また、自分たちの地域を自分たちで良くしていくという気運を醸成し、地域の自主的な活動を支援する取り組みが必要です。同時に、まちに魅力を感じ、地域のために働きたいという思いをもった移住者を増やすことも求められています。

## 【目指す将来像】

市民が主体となって地域の活性化や課題解決等に取り組むことができるまち

施策1		「古今伝授の里づくり」の推進と担い手づくり
主な取り組み		
1-①	古今伝授の里フィールドミュージアムの充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「歌のまちづくり」の調査研究</li> <li>・古今伝授や東氏に関する文化財の適切保存と周知・利活用</li> <li>・歌を詠みたくなるような美しい景観づくり</li> <li>・篠脇山の整備</li> </ul>
1-②	文化的イベントの開催	<ul style="list-style-type: none"> <li>・薪能「くるす桜」、短歌、和歌の専門的なイベントの開催</li> <li>・地域住民主体によるイベントの開催支援</li> </ul>
1-③	担い手づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・短歌による小中学生から大学、一般歌人までの世代間交流の推進</li> <li>・小中学校や公民館活動での短歌教育の推進</li> <li>・古今伝授の里づくりを支える人材の育成</li> </ul>

施策2		地域住民による地域課題解決への取り組み
主な取り組み		
2-①	気運の醸成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各団体との意見交換会の実施</li> <li>・小中高生の地域づくり活動への参画推進</li> <li>・自治会が行う地域づくりの働きかけと支援</li> </ul>
2-②	組織づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・まちの課題を解決するための組織の育成と支援</li> <li>・地域の自主活動を牽引するリーダーの育成</li> </ul>

施策3		住環境の保全と移住定住の促進
主な取り組み		
3-①	まちの魅力発信	<ul style="list-style-type: none"><li>・地域づくり等の取り組みの発信</li><li>・地域住民による SNS 発信の促進</li></ul>
3-②	美しいまちの景観保全	<ul style="list-style-type: none"><li>・地域住民による美化運動の促進</li><li>・住環境の整備（荒廃の進む山林や農地の保全）</li></ul>

## 第3章 小さな拠点とネットワークの形成にむけて

### (1) 小さな拠点とネットワークの考え方

市内には多くの自治会（地区）がありますが、世帯数が50を割るなど、少子高齢化により自治会規模の縮小が進んでいるところも少なくありません。こうした自治会（地区）では、地域住民の安全・安心な暮らしを確保することや祭礼などの伝統行事を維持・継承することのほか自治会共同作業を継続して行っていくことが、今後はより困難になっていくと考えられます。

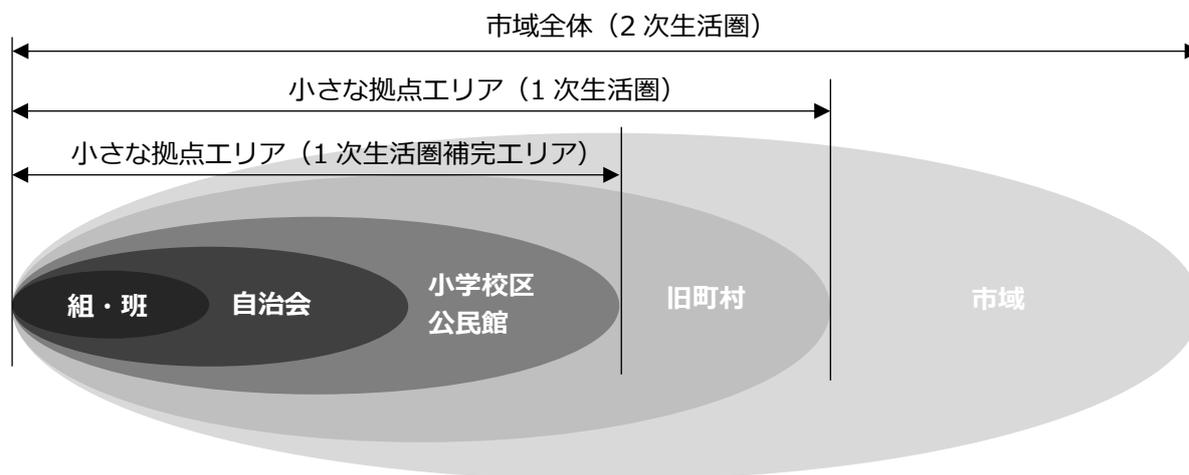
郡上市の人口推移の見通しから、高齢者の割合はますます増加していきませんが、地域活動の担い手となる生産年齢人口の割合はさらに減少していきます。このため、地域的なつながりが強い一定の単位（小さな拠点エリア）において日常の生活を支える機能を集約し、交通、人、情報など様々なネットワークでつなぐ「小さな拠点とネットワーク」の形成と、地域運営組織の構築が急務となっています。

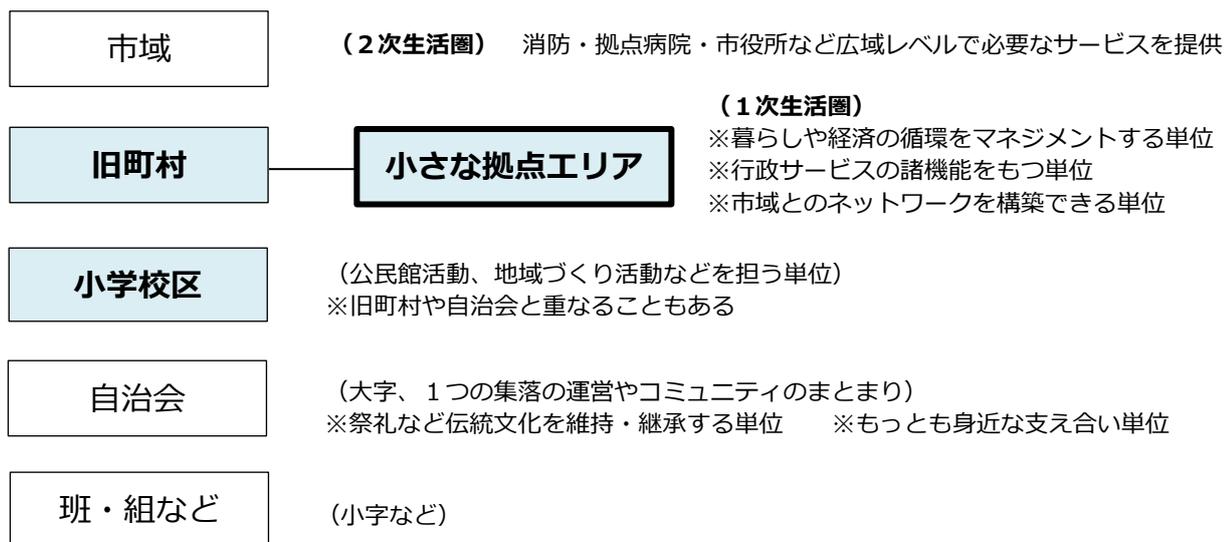
市内には、すでに「小さな拠点とネットワーク」によって地域課題の解決に取り組んでいる地区がいくつかあります。まずはこれらの地区を「モデル地区」として積極的に支援し、地域の実情に合った取り組みを進めながら全市に広げていきたいと考えています。

### (2) エリア設定の考え方

地域的なつながりが強い一定の単位（小さな拠点エリア）の設定については、もっとも身近な支え合いが可能となる最小単位のコミュニティや、祭礼などの伝統文化を維持・継承する集落、そして歴史的、文化的経緯を共有できる範囲を考慮する必要があります。市内には班や組、地区会、自治会がありますが、最小の単位を班や組、最大単位を市域（郡上市全域）として捉えた場合に、「小さな拠点エリア」をどのように設定し、設定したエリアの中で「生活拠点」をどのように配置するのか、また生活に必要なサービス等をどのように確保していくのか検討していく必要があります。

郡上市では、こうした考え方のもと、行政サービスの諸機能を有し、市域とのネットワークを構築できる旧町村単位（1次生活圏）を「小さな拠点エリア」と設定しております。ただし、八幡町及び白鳥町については、小学校区を基本とした比較的小規模な単位を、生活や地域コミュニティの形成に最低限必要な一定の機能を有している「小さな拠点エリア」の中にあるサブエリア（1次生活圏補完エリア）として位置付けています。また広域レベルで必要なサービスを提供する消防、拠点病院、市役所などの機能は、2次生活圏として市域全体の中心拠点となる八幡町の市街地エリアに位置付けています。





### (3) 地域運営の仕組みづくり

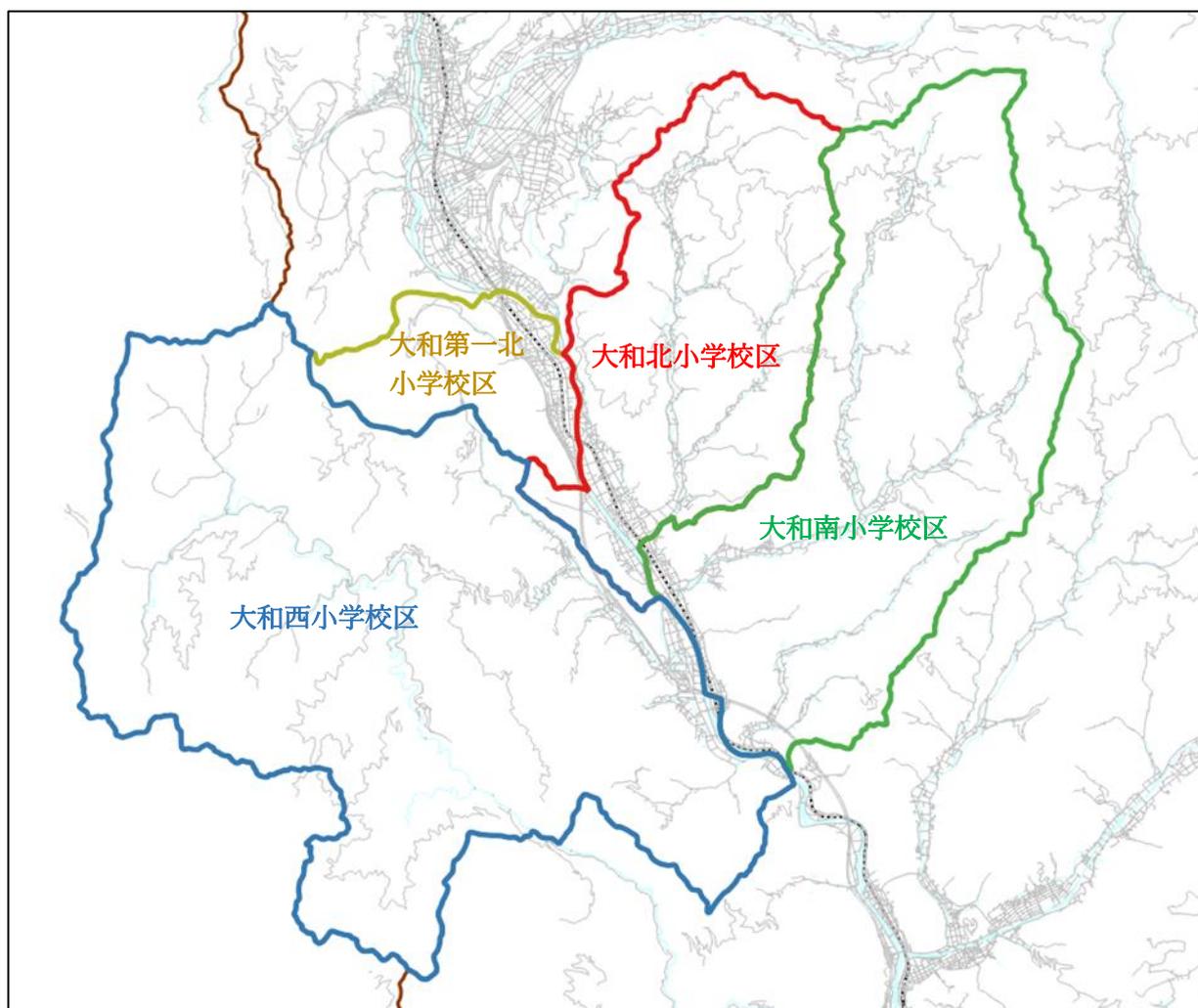
人口減少や少子高齢化が進む中において、地域コミュニティの維持をはじめ、地域で必要な生活サービス等を受け続けられる環境を維持していくためには、住民自らが地域内の課題を自分事として捉え、地域の資金や人材を有効に活用しつつ、住民が主体となって地域での暮らしを支える活動を行うという「住民主体」が基本となります。本計画にある行政が行う施策だけでは解決が困難な地域課題等に対し、今後、住民主体の地域計画（以下「地域運営プラン」という。）を作成し、それを協議、実行していく「地域運営組織」の形成を進めていく必要があります。

「地域運営プラン」や「地域運営組織」を形成していくには、地域の現状を把握し、課題解決に向けた議論や検討が必要となるため、地域の現状を「小さな拠点とネットワーク」（生活拠点として日々の暮らしに必要な機能）という観点から第4章にまとめています。

なお、郡上市では「小さな拠点エリア」を旧町村単位としておりますが、もっとも身近な支え合いが可能となる最小の単位を小学校区として捉え、サブエリアの位置づけのない地域（八幡町、白鳥町以外）についても、小学校区ごとに地域の現状を記載します。

## 第4章 大和町における小さな拠点とネットワークの形成にむけて

大和町は町全体を1つの小さな拠点エリアとしています。また小学校区は大和南小学校区、大和西小学校区、大和北小学校区、大和第一北小学校区の4つに分かれていますが、現在、地域内の全4小学校を1つの小学校とする統合に向けた取り組みを行っています。統合後は、小学校区が大和町全域になることから、小さな拠点エリアと合致しますが、本章では最も身近な支え合いが可能となる最小の単位を小学校区と捉え、現在の小学校区ごとに地域の現状を記載します。



## (1) 校区ごとの現状

【大和南小学校区】		
校区の商店等	<ul style="list-style-type: none"> <li>○徳永地区にはショッピングセンターが立地し、周辺にドラッグストア、本屋、飲食店が広がり大和町の商業の中心となっています。</li> <li>○牧地区の観光施設である古今伝授の里フィールドミュージアムには飲食施設も併設されています。</li> <li>○国道 156 号沿いには、複数のコンビニや飲食店に加え、アパレルチェーン店も立地しています。</li> <li>○徳永地区のショッピングセンター等には市内外からの多くの買い物客が訪れており、古今伝授の里フィールドミュージアムには県内外からの集客があります。また国道 156 号沿いのコンビニや飲食店は、アクセスの良さから広く市内からの利用があります。</li> </ul>	
公共施設	徳永地区	○郡上市役所大和庁舎（市役所支所、社会福祉協議会、大和南公民館、郡上市市民協働センター）、保健福祉センターやまつつじ、やまと総合センター、大和南小学校
	牧地区	○古今伝授の里フィールドミュージアム
	栗巣地区	○郡上特別支援学校大和校舎
医療・福祉施設	<ul style="list-style-type: none"> <li>○医療機関として大和医院、きとう眼科があるほか、デイサービスセンター大和も立地しています。</li> <li>○校区内の医療機関のほか、大和北小学校区内の岡部内科や大和町外の施設も利用しています。</li> </ul>	
公共交通の状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>○白鳥交通の郡上八幡白鳥線が、国道 156 号を八幡方面行きは平日 11 便、休日 6 便、白鳥方面行きは平日 9 便、休日 6 便運行しています。</li> <li>○長良川鉄道が国道 156 号と並行して走り、大和町外への交通手段となっています。</li> <li>○大和町内の主要施設を回るルートとして自主運行バス栗巣・古道線と神路線を各週 2 日運行しており、町内における施設利用等の移動手段として利用されています。</li> </ul>	
校区の特性	<ul style="list-style-type: none"> <li>○徳永、河辺、口神路、中神路、牧、下古道、上古道、下栗巣、上栗巣の自治会で形成されており、校区を活動範囲とするまちづくり組織は無く、それぞれの自治会の活動が主となっています。</li> <li>○公民館活動は、大和南公民館が中心となって地区対抗区民運動会、ウォーキング大会などを実施しています。</li> <li>○古今伝授の里フィールドミュージアムでは、和歌に関する資料の展示、イベントの開催のみならず、東氏についての資料の展示を行うとともに、明建神社では、毎年、薪能、七日祭が開催されています。</li> <li>○明建神社の桜並木では、地元団体により毎年春にライトアップが行われています。</li> <li>○母袋地区では、母袋わくわく会が移住施策を推進するとともに、地域おこし協力隊員を受入れ地域づくりに取り組んでいます。また、元地域おこし協力隊員と郡上カンパニーメンバーが中心となって立ち上げた民泊施設「山のひゃくせい」のほか、スキー場やキャンプ場、フィッシングなど地域外からの人の受け入れに力を入れています。</li> </ul>	

【大和西小学校区】		
校区の商店等	<ul style="list-style-type: none"> <li>○校区内において日用品等を購入する店舗はありません。</li> <li>○多くの方が日用品等の購入を大和南小学校区のショッピングセンターや周辺のドラッグストア等を利用しています。</li> <li>○東海北陸自動車道ぎふ大和パーキングエリアがあり、県内外から多くの方が利用しています。</li> </ul>	
公共施設	野口地区	○幼児教育センターやまびこ園、古今伝授の里運動公園
	福田地区	○大和西小学校、大和西公民館
医療・福祉施設	○校区内に医療施設はなく、校区外の施設を利用しています。また福祉施設として郡上偕楽園があり、校区内外をはじめ多くの利用があります。	
公共交通の状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>○白鳥交通の郡上八幡万場線が、主要地方道白鳥板取線を八幡方面行きは平日2便、休日3便、白鳥方面行きは平日4便、休日3便運行しています。</li> <li>○大和町内の主要施設を回るルートとして自主運行バス落部・場皿線を週2日運行しており、町内における施設利用等の移動手段として利用されています。</li> </ul>	
校区の特性	<ul style="list-style-type: none"> <li>○野口、福田、場皿、洞口、落部の自治会で形成されており、校区を活動範囲とするまちづくり組織は無く、それぞれの自治会の活動が主となっています。</li> <li>○公民館活動は、大和西公民館が中心となって地区対抗区民運動会や夏祭り等を実施しています。</li> <li>○校区内に東海北陸自動車道のぎふ大和 IC があり、大和町内への玄関口となっています。</li> <li>○合併前に整備した工業団地があり、現在 11 社が操業し多くの雇用を生み出しています。</li> </ul>	

【大和北小学校区】	
校区の商店等	<p>○過去には日用品等を扱う商店街や小売店があり賑わいを見せていましたが、多くの店舗が閉店し、現在は数件を残すのみとなっています。</p> <p>○日用品等の購入は、剣地区内の小売店の利用もありますが、多くの方が大和南小学校区内のショッピングセンターや周辺のドラッグストア等を利用しています。</p> <p>○国道 156 号沿いに飲食店が並んでおり、通行者による利用があります。</p>
公共施設	<p>○大和生涯学習センター（大和北公民館、郡上市図書館やまと分室）、大和生きがいセンター、大和中学校、道の駅古今伝授の里やまと、大和北小学校、大和中学校</p>
医療・福祉施設	<p>○校区内には医療施設として岡部内科があるほか、障害者福祉施設としてみずほ園、つくしの家、ぶなの木学園共働社が、高齢者福祉施設としてデイサービスキャリーオンがあります。また子育て支援では、子ラボハウス キキの家があり、大和生きがいセンターではバンビの森が活動しています。</p> <p>○校区内の医療施設のほか、大和南小学校区や大和町外の施設を利用しています。</p>
公共交通の状況	<p>○白鳥交通の郡上八幡白鳥線が、国道 156 号を八幡方面行きは平日 11 便、休日 6 便、白鳥方面行きは平日 9 便、休日 6 便運行しています。</p> <p>○長良川鉄道が国道 156 号と並行して走り、大和町外への交通手段となっています。</p> <p>○大和町内の主要施設を回るルートとして自主運行バス大間見・小間見線を週 1 日運行しており、町内における施設利用等の移動手段として利用されています。</p>
校区の特徴	<p>○剣（下剣、中剣、上剣）、口大間見、大間見、小間見、名皿部の自治会で形成されており、校区を活動範囲とするまちづくり組織は無く、それぞれの自治会の活動が主となっています。</p> <p>○公民館活動は、大和北公民館が中心となってかるた大会、ウォーキング大会などを実施しています。</p> <p>○校区内のやまと温泉やすらぎ館、道の駅古今伝授の里やまとの 2 施設の集客力は高く、市内外から多くの方が訪れるとともに地域の雇用を生み出しています。また令和 2 年には隣接してホテルも開業しています。</p> <p>○剣地区には、みずほ園、つくしの家、口大間見地区には、ぶなの木学園共働社があり、障害者に就労の機会を提供しています。</p> <p>○令和 2 年に国道 156 号の改良工事が完了し、長良川を挟んだ大和第一北小学校区との交通利便性が向上しました。</p>

【大和第一北小学校区】	
校区の商店等	<p>○校区内において日用品等を購入できる店舗はありません。</p> <p>○多くの方が日用品等の購入を大和南小学校区のショッピングセンターや周辺のドラッグストア等を利用しています。</p>
公共施設	<p>○郡上大和ほたるの里蛍光館（万場公民館）、大和第一北小学校</p>
医療・福祉施設	<p>○校区内に医療施設はなく、校区外の施設を利用しています。</p>
公共交通の状況	<p>○白鳥交通の郡上八幡万場線が、主要地方道白鳥板取線を八幡方面行きは平日 2 便、休日 3 便、白鳥方面行きは平日 4 便、休日 3 便運行しています。</p> <p>○長良川鉄道が主要地方道白鳥板取線と並行して走り、大和町外への交通手段となっています。</p>
校区の特徴	<p>○上万場、中万場、下万場の 3 つの地区で形成されており、校区を活動範囲とするまちづくり組織は無く、自治会としては万場自治会の 1 つとなっています。</p> <p>○公民館活動は、万場公民館が中心となって蛍観察会、夏祭り、区民運動会などを実施しています。</p> <p>○校区内の西側の山すそを中心に果樹栽培が行われており、郡上の特産の 1 つとなっています。</p>

## (2) 大和町の主要な地域活動団体

分野	地域活動団体
産業・雇用	郡上市商工会大和支部 大和観光協会 獣肉利活用推進協議会
健康・福祉	大和地区社会福祉協議会 郡上市シニアクラブ連合会大和町支部 大和町民生委員児童委員協議会 郡上市つくし会生活支援ぐじょう
環境・防災・社会基盤	郡上市消防団大和方面隊 郡上市防災士会
教育・文化・人づくり	大和地域公民館 大和南公民館 大和西公民館 大和北公民館 万場公民館 大和町文化協会 大和町文化財保護協会 青少年育成大和地域会議 郡上市スポーツ推進委員大和地域部 大和北小学校学校運営協議会 大和南小学校学校運営協議会 大和西小学校学校運営協議会 大和第一北小学校学校運営協議会 大和中学校学校運営協議会 NPO 法人郡上市放課後児童クラブ（大和放課後児童クラブ） 大和子ども会育成協議会 バンビの森 子ラボハウス キキの家 NPO 法人スポーツフラッグG
自治・まちづくり	郡上市自治会連合会大和支部 大和地域協議会 NPO 法人コミシス郡上 NPO 法人メタセコイアの森の仲間たち K F C 牧友会 母袋わくわく会 〇〇会（まんまるかい） あしたりの会 野生会 福田クラブ 土曜会

### (3) 小さな拠点とネットワークづくりの方向性

小さな拠点とネットワークを形成していくには、地域住民が主体となって地域を運営していく地域運営組織の形成が必要となり、大和町は町全体を1つの小さな拠点エリアとして設定しています。

現在、大和町内の4つの小学校を1つの小学校へ統合する取り組みが行われており、教育の充実が図られる一方で、小学校区が大和町全域となることで、小学校区単位で行ってきた個別事業や固有の行事等の縮小・廃止をきっかけとした地域力の低下が懸念されます。小さな拠点とネットワークを形成していくうえでは、地域的なつながりが強い一定の単位を小さな拠点エリアと捉え、地域運営組織を構築することが求められているため、4つの小学校区ごとに地域運営組織を構築することも検討していく必要があります。

地域に必要な生活サービス等の確保や維持は小学校区ごとの地域運営組織が行い、小学校区を超えた大和町全体の方向性は大和地域協議会が主体となって検討や協議を行うなど、小学校の統合という大きな事業を契機に様々な可能性を検討し、持続可能な地域を目指す必要があります。